

| | | | | |
|--|---|-------------------|--------------|----------|
| 科目名 Subject Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| 生活支援技術Ⅶ Independent Living Skill Ⅶ | | 2年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | |
| 1単位 | 演習 | 選択 (介護福祉士養成課程必修) | | |
| 当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス | |
| 和田晴美 新井文子 | 福祉棟2F | 月・火・水 (授業時間以外) | 授業中に指示します | |
| 授業の概要 | | | | |
| 利用者の緊急時および終末期に対応する能力を養うための、基礎的知識・技術を習得する。また、急変および終末期に際している利用者および家族への理解を深め、その対応方法についても学ぶ。さらに、尊厳の保持やチームアプローチの必要性について理解することを目的とする。 | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | |
| ①利用者の状態が急変した場合の観察、心構えを学び、緊急時における応急処置および心肺蘇生法を習得できるようにする。 ②終末期にある利用者および家族の心身状態を学び、尊厳を保持し、QOLを高めることの意義を理解できるようにする。 ③自身の死生観について深く考えることができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 緊急時、終末期の介護に関する、応急処置や心肺蘇生法、臨死期の介護等を講義・演習を通して学ぶ。また、緊急時の対応の授業で、普通救命講習を開講し、講習終了時に修了証が認定される。 | | | | |
| 学習の成果 | | | | |
| ①利用者の急変状態に対して、専門職の視点から観察し、適切な対応をすることができる。 ②特に応急手当の実際は、私生活にも活用することができる。 ③終末期の定義を説明することができる。 ④全人的痛み(トータルペイン)の種類と内容を列挙することができる。 ⑤危篤時から死に至るクライアントのからだの変化がわかり、必要な支援方法を説明することができる。 ⑥クライアントの死が家族に与える影響を踏まえて、家族に対する支援を説明することができる。 ⑦自分自身の「死」を考えることから、終末期にある人への支援の在り方を考えることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ①ガイダンス(シラバスにそって) 普通救命講習について②事例検討グループワークについて 課題提示・まとめ方③佐野市における救急概要(新井) | | | |
| 第2回目 | 緊急時の対応① 佐野地区広域消防組合 救急隊員による「普通救命講習」(新井) | | | |
| 第3回目 | 緊急時の対応② 佐野地区広域消防組合 救急隊員による「普通救命講習」(新井) | | | |
| 第4回目 | 予想される事故とその予防 高齢者に多く見られる事故、緊急度の判断(新井) | | | |
| 第5回目 | 救急処置の実際① 適切な体位、創傷、熱傷、骨折(新井) | | | |
| 第6回目 | 救急処置の実際② 呼吸困難、熱中症、運搬法、包帯法 【演習：包帯法】(新井) | | | |

| | | | |
|--|--|-----|---|
| 第7回目 | グループワーク発表、まとめ(新井) | | |
| 第8回目 | 終末期の介護 「死」とは 現代の死の特徴と日本人の死生観(和田) | | |
| 第9回目 | 全人的痛み(トータルペイン)とその介護(和田) 【課題1 「私が午後6か月といわれたら」】 | | |
| 第10回目 | 終末期にある人への介護の方法、リラクゼーション【演習：ハンドマッサージ】(和田) | | |
| 第11回目 | 危篤時のからだの変化と介護 看取り期の介護(和田) | | |
| 第12回目 | 家族への介護 悲嘆のプロセス、死の受容への援助(和田) 【課題2 「最後の手紙」】 | | |
| 第13回目 | エンゼルケアとは【演習：エンゼルケア】(和田) | | |
| 第14回目 | 事例による実技の確認(和田・新井) | | |
| 第15回目 | まとめおよび定期試験(和田) | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 評価の領域 | | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | | 20% | 以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を傾聴し、自ら積極的に発言して学びを深められること。 |
| レポート | | 20% | 終末期の介護は、課題1「私が余命6か月だったら」と、課題2「別れの手紙」のレポートで評価する。評価基準Sは、課題の目的を理解し、内容を深く捉えて洞察していること。期限を厳守していること。 |
| 調査報告書 | | | |
| 小テスト | | | |
| 中間・学期末試験 | | 60% | 実技試験(20%)及び筆記試験(40%)を行う。実技試験は、介護福祉士国家試験に準じた事例問題となる。手順だけでなく、声掛け等にも配慮すること。筆記試験は、記述問題、語群からの選択問題等である。 |
| 発表内容(態度含む) | | | |
| その他 | | | |
| 教科書と参考図書 | | | |
| ①新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ 第7巻 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版 ②応急手当講習テキスト 東京法令出版 | | | |
| 履修上の心得・ルール | | | |
| 講義・演習・グループワークともに積極的に参加することを望む。演習時は実習着を着用し、身だしなみを整える事。演習した項目は自己練習する事。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。教科書②については、1回目の授業において連絡し、別途徴収する。 | | | |